

美術－１（第１学年） 感じ取ったことを言葉や絵にすることにより，感性を育む事例
【学習活動の概要】

1 題材名 絵を言葉に，言葉を絵に		
2 題材の目標 絵画の造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもつとともに，それらを感じ取り，作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして見方や感じ方を広げる。		
3 評価規準 【美術への関心・意欲・態度】 ・造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち，主体的に感じ取るようとしている。 【鑑賞の能力】 ・造形的なよさや美しさ，対象のイメージ，作者の心情や意図と表現の工夫，主題と表現技法の選択や材料の生かし方などを感じ取り，自分の思いや考えをもって味わっている。		
4 題材について 本題材は，異なる絵画を班ごとに鑑賞し，描かれている内容を言葉で記述する。次に記述した文を他の班と交換し，文を基に一人一人が想像して絵を描く。最後にクラス全員で，各自の絵，班ごとにまとめた文を見ながら，絵画についてよさや美しさ，作者の意図や表現工夫などを話し合い，見方を広げる。		
5 主な学習活動（全１時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	○事前準備 ・6つの班に分かれ，教室前方に3つの班，後方に3つの班が分かれて座る。 ・教師が2種類の絵(ゴッホ「星月夜」，キリコ「街の神秘と憂鬱」)を3枚ずつ用意し，前方の3班にゴッホ，後方の3班にキリコの絵を渡す。配られた絵画を他の班に見せないようにする。	
展開	○配られた絵画を言葉で表すことを知り，学習に関心をもつ。 ○班ごとに一枚の絵画を鑑賞し，描かれている内容を言葉で記述する(班で1つにまとめる)。(活動①) ○記述文を前後の班で交換し，もらった班は，書かれている内容を基に絵画の情景を想像して絵を描く。(絵は，一人一人が描く)。(活動②)	・絵画に描かれているものや情景，構図や色彩などから感じ取ったことなどを10～15項目の文にまとめる。 ・他の班が書いた文を基に，想像力を働かせて，色鉛筆を使って絵を描く。
まとめ	○基になった絵画，文，各自が描いた絵を見比べてクラス全体で鑑賞する。(活動③) ・造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わう。	・クラス全員で，各自の絵，班ごとにまとめた文を見ながら，名画についてよさや美しさ，作者の意図や表現工夫などを話し合い見方を広げる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 美術 第1学年「B 鑑賞」(1)アにおいて、「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。」と示している。

本事例は、生徒が絵画を視点をもちて鑑賞し、他者の感じ方なども理解しながら作品に対する新たな価値などに気付き深く味わうために言葉や絵による言語活動を活用している。まず、絵画作品を言葉で説明することにより生徒が視点をもちて絵画を読み取ることになる。次に、文を絵に描くことによりイメージを膨らませながら絵画の内容を想像することになる。更に、自分の考えを説明し合うことにより考えが整理されたり新たな見方に気付いたりすることになる。

【言語活動の充実の工夫】

- 班ごとに一枚の絵画を鑑賞し、描かれている内容を言葉で記述する。絵画作品を言葉で説明することにより生徒が視点をもちて絵を読み取ることをねらいとする。(活動①)
 - ・単に描かれているものや場面を列記することにならないようにするため、言葉で記述する際に、「○：事実」(「画面の左側に太い木が1本ある」など)と、「●：感じ取ったこと」(「優しく包み込むような感じ」など)を書き分けるように指示する。
 - ・ここでは、形や色彩、描き方などの造形的な特徴に着目して記述させることで、感情の効果などを読み取らせるようにする。

〈ある班の記述〉

- 画面右にはとても明るい三日月が光っている
- 画面の左側に太い木が1本ある
- 空の中央に渦巻きの風みたいなものがある
- 画面の下には田園風景みたいな町が広がっている
- 空には大きくて明るい星がたくさんある
- 町が山に囲まれている
- 町の中央に小さくて白い教会みたいな建物がある
- 夜で絵全体は青みがかっていて暗い
- 色や描き方が、少し怖い感じ
- 風景全体図、眠っているような感じ
- 少し悲しくなるような静けさを感じさせる雰囲気
- 優しく包み込むような感じ
- 空が悲鳴を上げて助けを求めている感じ
- ヨーロッパみたいな雰囲気

- 記述文を前後の班で交換し、もらった班は、造形的な特徴等が書かれている文を基に一人一人が絵画の情景を想像して色鉛筆で描く。文を絵に描くことによりイメージを膨らませながら絵画の内容を想像することをねらいとする。(活動②)
 - ・書かれている言葉から、「事実」と「感じ取ったこと」を整理しながら解釈し、元の絵画を想像して描く。
 - ・他者の絵を見ずに、自分の読み取ったイメージを基に描く。

〈生徒が描いた絵〉



〈基の絵〉



(ゴッホ「星月夜」)

- 基になった絵画、文、各自が描いた絵を見比べてクラス全体で鑑賞することにより、生徒が絵画のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わうことをねらいとする。(活動③)

- ・基になった絵画を見ながら、言葉や絵で造形的な特徴を的確に表現できたことやできなかったことなどを振り返る。
- ・再度、基の絵画を鑑賞し、よさや美しさ、作者の意図や表現工夫などについて自分の考えを説明し合う。
- ・絵画に対する自分の考えを、ワークシートにまとめる。

- ◎〈生徒の記述〉から、この生徒の【鑑賞の能力】の実現状況を見ると、視点をもちて作品を鑑賞し、よさや美しさ、作者の意図などを豊かに感じ取ることができていることが分かる。

〈生徒の記述〉夜空に明るい月とたくさんの星があり、希望の光のように見えます。手前の大きな暗い木や、夜空のぐねぐねとした筆あとが印象的で、不安な感じがします。作者は、暗い気持ちの中に、明るい希望を見いだしたかったのではないかと思います。